# DONUTS 便り 🝩

## 夏のふり返りから見えた成果と課題

夏季休業中には、これまでのテスト結果や授業での子どもたちの姿をもとに、成果と課題を確認 し、2学期以降の取組について話し合いました。

## 成果

- ・「書くこと」への苦手意識が減り、文章を書く問題の無回答率が少なくなってき たこと。
- ・「読むこと」では物語文や説明文の内容をしっかり理解できていること。

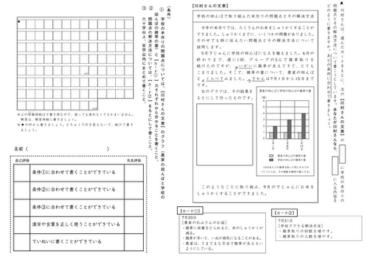
### 課題と取り組みの方向性

#### ◆基礎学力の積み上げ

一部の学年では、計算や漢字・言葉など基礎的な力に不足が見られます。 そのため、学校として取り組んでいる朝の学習タイム(国・算)に加え、授業中の帯活動や朝の学級裁量時間等を活用して基礎力の強化を図ります。また、AIドリル等を積極的に活用し、個別の課題に応じた学習を進めます。

#### **◆**条件に応じて書くカ

条件に合わせて書く活動が弱い点も課題です。 これに対しては、**書く活動を日常化し、どの教科でも** 「ひとまとまり」の文章を書く機会を設けます。また 5・6年生の140字主張文では、経験や考えだけでな く、複数の資料を関連付けて書く活動へと発展させま す。



これまでの書く活動では、(考え)と(理由)を結び付ける学習に取り組んできました。2学期以降は特に5・6年生において、(考え)と(資料から取り上げた事実を使った理由)という形式に変更していきます。

これにより、子どもたちは単に自分の考えを述べる だけではなく、**考えをより論理的に表現する力や情報 を活用する力の充実**が期待できます。

#### ◆子ども中心の授業づくり

授業が子ども中心になりきれていない場面も見られます。**子どもが自分の考えを書いたり説明したりする時間を増やし、教師の発言時間を減らす**ことで、学習の主役を子ども自身に戻していきます。

- ・ペアやグループでの交流を設定
- ・職員用ステッカー「7つの言葉」

①どうしたい?

②どうする?

③どうして?

④どういうこと?

⑤なぜ?

⑥わけは?

⑦だから?

先生がこれらの言葉を意識的に活用することで子どもが考えを説明したり、表現したりする機会を増やしていきます。

#### 「お天気キャスター」



子どもが発言し、先生は聞き手に回る場を意識的に設定することで子ども中心に学ぶ授業づくりを進めていきます。

これらの取組は、**今後の探究学習や自由進度学習へとつながる重要な基盤**となります。子どもが主体的に問いを立てたり、考えを交流したりすることで、より深い学びに向かうことができると考えます。